



首都圏レジリエンス研究推進センター 副センター長

岩波 越

いわなみ・こゆる

理学博士

専門分野 レーダー気象学

1991年防災科学技術研究所入所。2020年より現職。

XバンドMPレーダーの開発導入、国土交通省に技術移転した降雨強度推定手法等の開発、極端気象の観測・予測研究、自治体等との実証実験に従事。国家レジリエンス研究推進センター長、水・土砂防災研究部門総括主任研究員等を兼務。

ソラチェック

～首都圏の雨、風、雷、ひょう、雪をまとめてチェック～

「ソラチェック」公開

人口が集中する首都圏では、発達した積乱雲によるゲリラ豪雨、突風・竜巻、落雷、ひょうなどの激しい気象は、たとえ局地的であっても日常生活等に大きな影響を及ぼします。

防災科研では、激しい気象の早期検知・予測手法の研究開発のため、首都圏で「積乱雲の一生」を最新技術で独自に観測しています。これらのデータと特許を取得している解析手法等を使って、首都圏の雨、風、雷、ひょうのきめ細かなリアルタイム情報を求め、地図に重ねてまとめる見える化したウェブサイト「ソラチェック」を開発し、2020年6月22日に公開しました。

ソラチェックは、気象情報と東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場などの社会インフラ情報を重ねて表示することができます。250m間隔で雨や雷の移動が表示できるので、工事現場やスポーツ施設などに近づく危険を知ることができ、屋内への早めの移動などに活用することができます。日常生活では通勤・通学にも役立てていただけます。また、ひょうの推定域は、ひょうで傷ついた農作物の病害発生を防ぐために農薬散布が必要な場所を知りたいというニーズに応える情報です。現在の降ひょう推定域だけでなく過去3日間の降ひょう推定域の情報も掲載することで、週末にひょうが降った場合でも、翌週速やかに関係機関が意思決定し、対応できるよう支援しています。

雪の情報を追加

首都圏でも南岸低気圧等に伴って大雪に見舞われることがあります。降雪量、積雪深の情報だけでなく、大雪の際

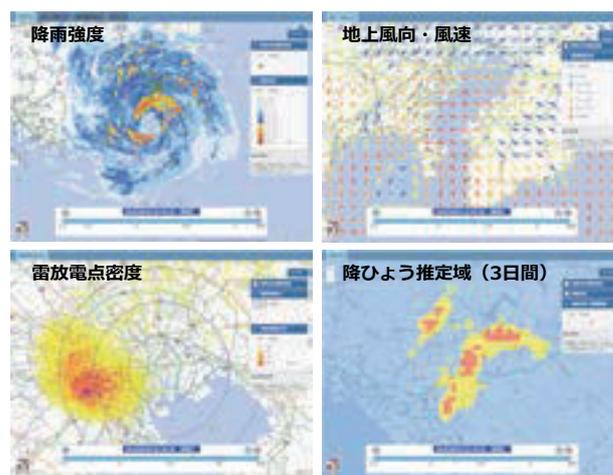


図 「ソラチェック」の表示例（図中の「日付、時刻」は実際とは異なります。）

に建物やカーポートなどの被害発生の目安となる積雪重量（屋根雪の重量）も重要な情報です。また、着雪重量・速度は信号機が見えにくくなったり着雪した雪が落下したりする目安になり、道路管理等に役立ちます。これらの雪に関する情報を2021年2月9日から新たにソラチェックに掲載しました。

おわりに

防災科研が持つ気象情報と企業等の皆様がお持ちのデータを重ね合わせて、皆様のニーズに応じた意思決定を支援する新しい情報を生み出し、レジリエントな社会の実現に向けて一緒に組織の防災分野における課題解決に取り組んでいきませんか。